

中国人女性留学生のリプロダクティブヘルスに  
関する知識と行動  
Reproductive Health of Chinese Female Students  
in Japan

斉藤早苗<sup>1)</sup>  
黒田裕子<sup>3)</sup>

カルデナス暁東<sup>2)</sup>  
町浦美智子<sup>4)</sup>

辻本裕子<sup>1)</sup>  
末原紀美代<sup>5)</sup>

SAITOH Sanae, CARDENAS Xiaodong, TSUJIMOTO Hiroko,  
KURODA Yuko, MACHIURA Michiko, SUEHARA Kimiyo

要旨

【目的】中国人女性留学生のリプロダクティブヘルスに関する知識と行動を把握することであった。

【方法】中国人女性留学生 229 名に無記名自記式質問紙を配布し、郵送法または留置法にて回収した。

【結果】回収数は 153 名、回収率および有効回答率 66.8%であった。平均年齢は  $22.8 \pm 3.3$  歳、在日期间は平均  $16.1 \pm 17.3$  か月であった。月経の知識(10 項目 10 点満点)は平均  $5.8 \pm 2.3$  点で、月経に関して気になることがある女性が 79.7%いた。性感染症の知識(25 項目 25 点満点)は平均  $10.4 \pm 4.8$  点で、(産)婦人科受診経験のない女性が 58.8%いた。性と生殖の健康に関する情報や相談を希望する女性は 61.4%いた。

【結論】中国人女性留学生の月経や性感染症に関する知識は十分とはいえず、リプロダクティブヘルスに関する看護支援の必要性が示唆された。留学早期に言語・文化に配慮した支援を開始することが必要である。

キーワード：中国，留学生，女性，リプロダクティブヘルス，国際看護

Key words : Chinese, female, student, reproductive health, global nursing

- 1) 梅花女子大学看護保健学部
- 2) 大阪医科大学看護学部
- 3) 姫路大学看護学部
- 4) 武庫川女子大学大学院看護学研究科
- 5) 元大阪府立大学看護学部

I. 研究の背景

戦後のわが国の留学生受入れ政策は、  
1983 年の『21 世紀への留学生政策に関する提言』を受け、「留学生 10 万人計画」が

ら始まっている(文部科学省，2002)。当時  
の留学生数は約 8,000 人であったが、年々  
増加してきた。2009 年には、優秀な人材獲得の方針により、「留学生 30 万人計画」が

策定された(黒田千晴,2011;寺倉憲一,2009)。

しかし、留学生が日本で学習生活していく上では、「経済」「健康」「言語」「生活」「修学」「人間関係」といった問題に遭遇しており、支援体制は十分とはいえないとの報告がある(井上,2001;伊藤,1998)。

2016年の中国人留学生は98,483名で国別構成比の41.2%をしめ、そのほぼ半数は女性である(日本学生支援機構,2017)。中国人留学生を対象とした研究は、保健行動やソーシャルサポートに関する調査が散見されるが(馬,2007;久米,他,2010;森,2007;陳,他,2008)、中国人女性留学生のリプロダクティブヘルス(reproductive health:性と生殖の健康)に関しては、妊娠、出産、育児についての研究(GuYan-Hong,2004)が見られるにとどまっている。中国ではリプロダクティブヘルス教育がまだ十分ではなく、都市部と農村部では保健医療に地域差がある(斉藤,他,2013)。

中国人女性留学生のリプロダクティブヘルスの向上は、留學生活の向上につながると考えられるため中国人女性のリプロダクティブヘルスに関する看護支援に意義がある。

## II. 研究目的

本研究の目的は、中国人女性留学生のリプロダクティブヘルスに関する知識と行動からヘルスニーズを把握し、看護支援のための基礎資料とすることであった。

## III. 研究方法

### 1. 調査対象および調査方法

近畿地区に所在する大学院・大学と日本の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設(以下日本語学校)に在籍している中国人女性留学生229名に研究の趣旨等を記載した説明文と無記名自記式質問紙を教育施設にて説明・配布し、郵送法または留置法にて回収した。

### 2. 調査内容

#### 1)対象の基礎情報

年齢・在日期間、最終学歴、日本での在籍学校、婚姻歴、出産歴、居住形態

#### 2)リプロダクティブヘルスに関する知識や行動

基礎体温に関する認知と行動、月経に関する知識(10項目)と行動、性感染症に関する認知(12疾患)・知識(25項目)、(産)婦人科受診に関するイメージ(6項目)、(産)婦人科受診体験、性行動、身体の気になることや要望

#### 3)生活の質

WHOQOL26を用いて測定した(田崎・中根,2011)。WHOQOL26は、質問数は26項目あり、身体的領域、心理的領域、社会的関係、環境領域の4領域からなる。今回は出版元の許可を得て、質問用紙内に印刷した。

なお、対象女性が調査内容を理解しやすいように日本語の質問紙に中国語翻訳した

質問紙を資料として添付した。

### 3. 調査期間

2012 年 7 月～2013 年 5 月

### 4. 分析方法

月経に関する知識 10 項目、性感染症に関する知識 25 項目は、各項目を 1 点として合計点を算出した。WHOQOL26 は、手引書に基づき身体的領域、心理的領域、社会的関係、環境領域の 4 領域の得点を算出した(範囲 1－5 点)。

統計的解析には SPSS 16.0J for Windows を使用した。相関については Pearson の積率相関係数を算出し、2 群間の平均値の比較は t 検定を、独立性の検定は  $\chi^2$  検定を行い、有意水準を 5% とした。

### 5. 倫理的配慮

研究対象者には、研究目的、研究方法、研究協力の自由意思、研究協力の可否に関わらず不利益を被らないこと、個人情報保護やプライバシーの守秘、研究成果の公表方法と匿名性の保証について文書と口頭で説明した。文書には中国語文も添え、口頭説明では中国人による中国語での説明も実施した。質問紙を配布し、投函をもって研究協力の同意が得られたものとした。本研究は、梅花女子大学研究倫理審査委員会の審査を受け承認を得て実施した(承認番号：0010-0025)。

## IV. 結果

### 1. 回収数

回収数は 153 名(回収率 66.8%)で、基本属性について記載があった 153 名を有効回答(有効回答率 66.8%)とした。

### 2. 対象の属性

対象の年齢の平均±SD は 22.8±3.3 歳で、中国における最終学歴を図 1 に示した。日本における在籍教育機関は、近畿圏内の大学院・大学・短期大学 64 名(41.8%)、日本語学校 89 名(58.2%)であった。

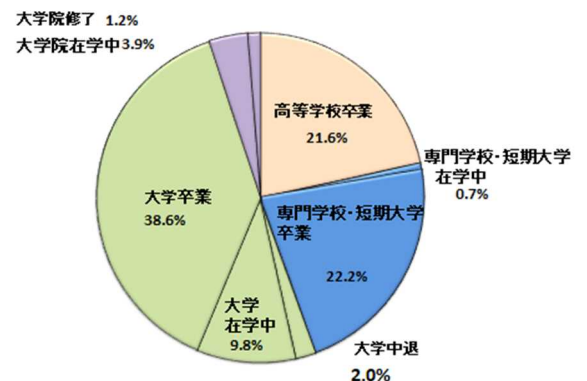


図1 中国における最終学歴

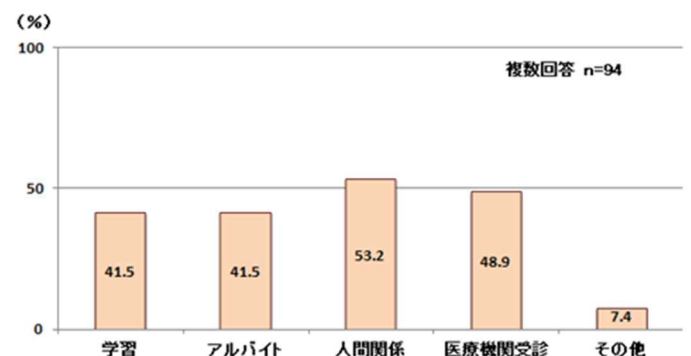


図2 日本語での不自由内容

在日期間の平均±SD は 16.1±17.3 か月、未婚女性 146 名(95.4%)、既婚女性 7 名(4.6%)、出産経験がある女性は 2 名(1.3%)であった。居住形態は、一人暮らしが 70

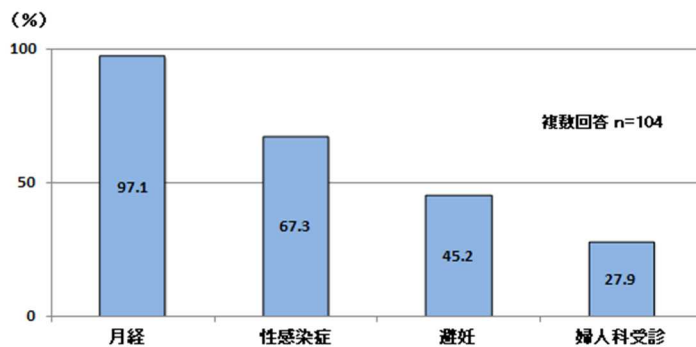


図3 中国で受けた性教育の内容

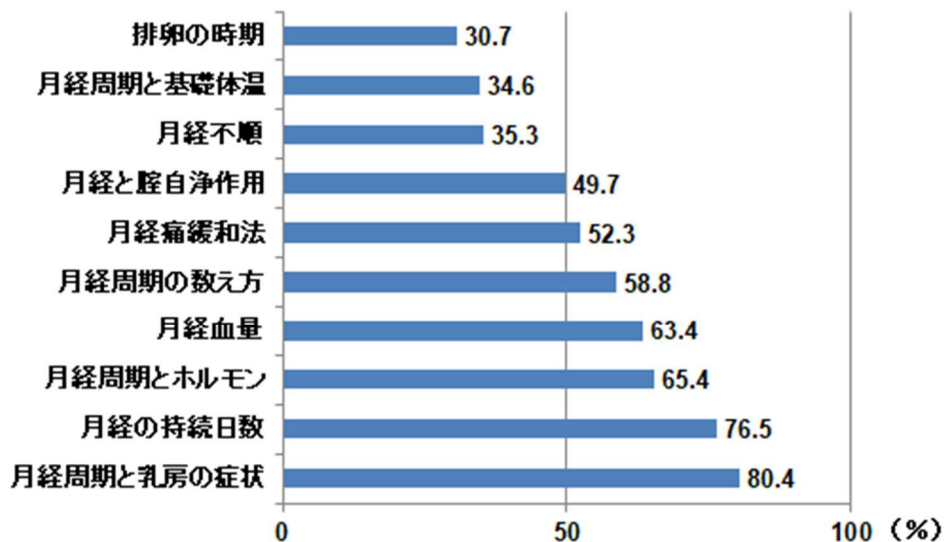


図4 月経に関する知識の正答率 n=135

名(45.8%)、友人との同居 52 名(34.0%)、学生寮 14 名(9.2%)、家族や親類との同居が 17 名(11.1%)であった。

現在日本語に不自由を感じていると回答した女性は 94 名(61.4%)であった(図 2)。

中国で性教育を受けたと回答した女性は 104 名(68.0%)で、その内容を図 3 に示した。

### 3. 基礎体温に関する認知と行動

基礎体温について「知っている」と回答した女性は 89 名(58.2%)であった。現在測定中の女性は 4 名(2.6%)で、過去に測定経

験がある女性は 64 名(41.8%)であった。

### 4. 月経に関する知識と行動

月経に関する知識について、10 項目(1 項目 1 点)の得点の平均±SD は 5.8±2.3 点であった。図 4 は、各項目の正答率を示した。正答率が 50%以下であった項目は、「月経中の膣自浄作用」、「月経不順」、「月経周期と基礎体温」、「排卵の時期」であった。

月経を記録している女性は 69 名(45.1%)で、月経について気になることがあると回答した女性は 122 名(79.7%)いた。月経の記録行動と月経に関する知識・月経につい

表1 月経記録行動と月経に関する知識と  
「月経について気になることがある」との関連

	月経の知識 平均得点±SD	t検定	現在気になることがある 人(%)	χ <sup>2</sup> 検定
月経を記録している n=69	6.0±1.87	*	63 (91.3)	*
月経を記録していない n=84	5.0±2.44		59 (70.2)	

\*: <0.05

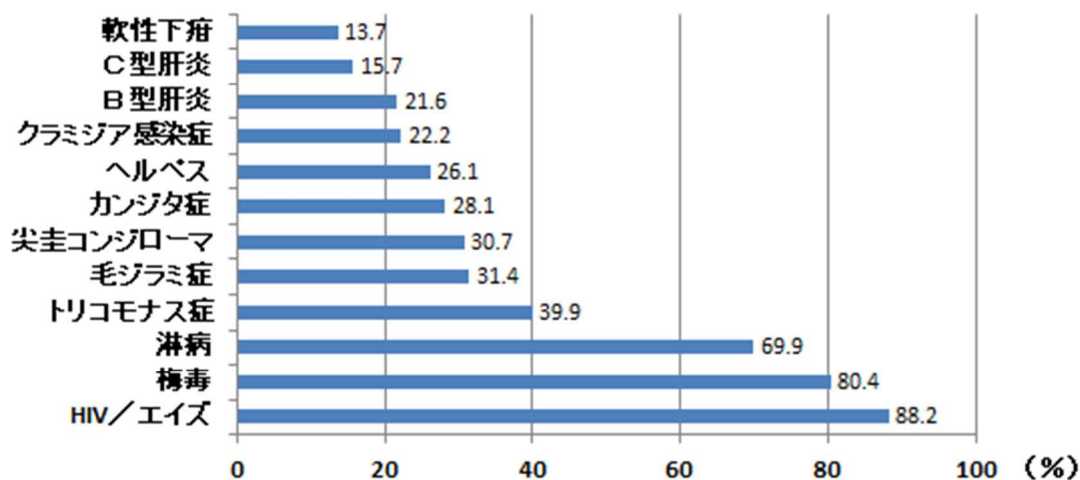


図5 性感染症疾患に関する認知率 n=135

て気になることの関連を表1に示した。月経を記録している女性の方が、有意に月経に関する知識得点が高く(t値2.767,  $p<0.006$ ), また月経について気になることがあると回答した女性が有意に多かった( $\chi^2$ 値9.724,  $p<0.002$ )。

##### 5. 性感染症に関する認知・知識と行動

性感染症疾患12疾患中、エイズ・淋病・梅毒以外の9疾患についての認知は40%未満であった(図5)。また、性感染症に関する知識得点(25項目25点満点)の平均±SDは10.4±4.8点であった。表2に各項

目の正答率を示したが、正答率50%以下は16項目あった。性行為経験があると回答した女性は18名(18.4%)であったが、性行為経験の有無と性感染症に関する知識得点には、有意な差はなかった。

##### 6. (産)婦人科のイメージと受診経験

女性留学生の(産)婦人科のイメージについて「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した女性は、「女性の味方」18名(12.4%), 「明るい」41名(26.8%), 「はずかしい」59名(38.5%), 「こわい」96名(62.7%), 「痛そう」81名(52.9%), 「いやらしい」108名

(70.6%)であった(表 3)。

(産)婦人科受診について、来日前に受診経験があった女性は 45 名(29.4%)、来日後

に受診を経験した女性は 15 名(9.8%)で、

まったく(産)婦人科受診の経験のない女性は 90 名(58.8%)いた。来日後に性や女性の

表2 性感染症に関する知識の正答率 n=153					
項 目			n	%	
1	日本のHIV(エイズ)ウイルス感染者数は増加している(正)		59	38.6	
2	HIV(エイズ)ウイルス感染者と一緒にプールや風呂に入るとHIV(エイズ)ウイルスに感染する(誤)		92	60.1	
3	HIV(エイズ)ウイルス感染者を刺した蚊や虫に刺されると、HIV(エイズ)ウイルスに感染する(誤)		54	35.3	
4	HIV(エイズ)ウイルスに感染している妊婦から、赤ちゃんにHIV(エイズ)ウイルスが感染する(誤)		119	77.8	
5	口を使った性行為で、口から性器に性感染症が感染する(正)		38	24.8	
6	口を使った性行為で、性器から口性に感染症が感染する(正)		44	28.8	
7	性感染症にかかっていると、HIV(エイズ)ウイルスに感染しやすい(正)		70	45.8	
8	健康に見えても、HIV(エイズ)ウイルスに感染していることがある(正)		99	64.7	
9	性感染症の原因となる病原体に感染すると、必ず症状がでる(誤)		54	35.3	
10	性感染症には、身体の特徴から、女性より男性の方が感染しやすい(誤)		30	19.6	
11	性感染症は、不妊や流産・早産の原因になる(正)		92	60.1	
12	コンドーム使用は、HIV(エイズ)ウイルス感染の予防になる(正)		83	54.2	
13	コンドーム使用は、性感染症の感染の予防になる(正)		87	56.9	
14	HIV(エイズ)検査は、感染後数日たてば感染しているかどうかわかる(誤)		38	24.8	
15	性感染症の検査は、感染後数日たてば感染しているかどうかわかる(誤)		31	20.3	
16	保健所では、名前を言わずにHIV(エイズ)検査ができる(正)		34	22.2	
17	保健所では、無料でHIV(エイズ)検査ができる(正)		31	20.3	
18	保健所では、無料でHIV(エイズ)の薬がもらえる(誤)		21	13.7	
19	月経中のSexは、HIV(エイズ)ウイルスに感染しやすい(正)		49	32.0	
20	月経中のSexは、性感染症に感染しやすい(正)		85	55.6	
21	HIV(エイズ)ウイルスの感染は治療によって完全に治る(誤)		92	60.1	
22	性感染症は、治療によって完全に治る(誤)		43	28.1	
23	コンドームは使用期限がある(正)		104	68.0	
24	コンドームは財布に入れて持ち歩くとよい(誤)		36	23.5	
25	コンドームには表と裏がある(正)		68	44.4	

表3 日本の(産)婦人科のイメージ n=153										
	そう思う		だいたいそう思う		あまりそう思わない		そう思わない		無回答	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
女性の味方	11	7.2	8	5.2	63	41.2	54	35.3	17	11.1
明るい	13	8.5	28	18.3	70	45.8	23	15.0	19	12.4
はずかしい	23	15.0	36	23.5	49	32.0	30	19.6	15	9.8
こわい	55	35.9	41	26.8	29	19.0	11	7.2	17	11.1
痛そう	43	28.1	38	24.8	40	26.1	12	7.8	20	13.1
いやらしい	56	36.6	52	34.0	20	13.1	6	3.9	19	12.4

身体の病気について医師や看護職者に相談したことがある女性は19名(12.4%)であった。

#### 7. 生活の質の実感

現在の生活の質(WHOQOL26)得点の平均±SDは3.3±0.3点あった。各領域点(範囲1-5点)の平均±SDは、身体的領域3.3±0.4, 心理的領域3.4±0.5, 社会的関係3.3±0.4, 環境領域3.3±0.4であった。

WHOQOL得点は、年齢、在日期間、日本語の不自由さと有意な関連はなかった。月経に関する知識と月経の記録行動や月経について気になること、また性感染症に関する知識と性行動と有意な関連はなかった。

#### 8. 留学生の要望

女性の性と健康について情報を得たいや相談を希望する女性は94名(61.4%)存在し、その内、月経については85.1%あった(図6)。

### V. 考察

今回協力を得た中国人女性留学生の月経に関する知識や月経記録行動は、日本の女子大学生(辻本,他,2009)とほぼ同様の割合であった。日本と中国のジェンダー文化的背景が女性への性教育に反映、類似していることがうかがえる。

月経を記録している女性の方が、月経に関する知識得点が高く、月経について気になることがあると回答していることから、女性自身の健康に対するセルフケア能力を高めるためには、正しい月経に関する知識の情報提供と月経記録行動の推進を支援することが必要である。また、女性の性の健康について相談を希望する女性が61.4%おり、その要望の最も多かった内容が月経について85.1%であったことから、相談事業の整備も急務である。

性感染症に関する認知は、エイズ・淋病・

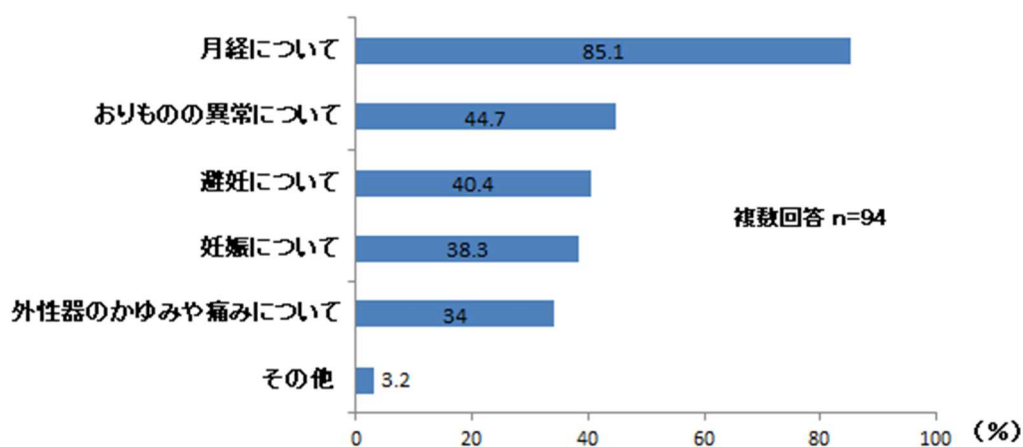


図6 女性の性と健康について情報を得たり相談したい内容



梅毒以外の 9 疾患についての認知が 40%未満と低かった。性感染症疾患の認知や性感染症に関する知識は、同調査内容であった日本の就労女性（斉藤,他,2007）と比較すると、同様な傾向であり、正答率はやや低い割合で、正しい最新情報を十分に把握していないことが明らかになった。性感染症に関しては、非常にセンシティブな問題であるが、リプロダクティブヘルスの基本的要素の 1 つであり、女性自身の健康障害にとどまらず、生殖機能や胎児・新生児にも悪影響をおよぼすものであるため、啓発が必要である。

中国人女性留学生の(産)婦人科のイメージは、「女性の味方」「明るい」のポジティブな回答は 30%未満で、「はずかしい」「こわい」「痛そう」「いやらしい」のネガティブなイメージが半数を超えていた。この結果も日本人女性と同傾向であった(斉藤,他,2007) が、受診行動をとる必要性や日本での受診方法をわかりやすく情報提供することによって、ネガティブなイメージの障壁の軽減を図る必要がある。さらに日本語に対する不自由さを感じている中国人女性留学生がいたことから、一般医療用語を含んだ(産)婦人科受診に必要な日本語についての知識も障壁の軽減につながると考える。

今回対象となった中国人女性留学生の在日期间は平均  $16.1 \pm 17.3$  か月、日本語学校在籍学生が 58.2%を占めていた。今回の調

査では、所属している学校による月経や性感染症に関する知識の差はなかったため、留学早期より、言語、文化に配慮した看護支援を開始することが必要である。特に日本語学校は、日本の大学に入学するための準備教育施設であることから、専門分野前の日本語学修を通して、リプロダクティブヘルスに関する知識を習得できるようカリキュラムに組み込むことや健康教育プログラムの実施などを提案していくことも重要と考える。

今回の質問紙は、日本語の質問紙に研究協力女性が調査内容を理解しやすいように、中国語に翻訳した資料を添付した。質問を中国語・日本語の同紙併記としなかった理由は、本調査の協力も日本語に馴染むことや学習の機会となることを意図したためであるが、今後の支援のための情報提供や教材作成において、より適切な提示方法を検討していくことも今後の課題である。

本研究は、近畿県内の大学院・大学・短期大学、日本語学校の学生を対象としていたため一般化には限界がある。今後は調査の地域をおよび対象者増やし、所属や在日期间による中国人女性留学生のリプロダクティブヘルス知識や行動のデータを収集することも課題である。

## VI. 結語

中国人女性留学生のリプロダクティブヘルスに関する知識と行動を把握するために、



中国人女性留学生に無記名自記式質問紙を実施し、153名(回収率および有効回答率66.8%)のデータを分析した。今回の平均在日期間  $16.1 \pm 17.3$  か月の中国人女性留学生の月経や性感染症に関する知識は、わが国の女子大学生や就労女性と同様か低い傾向であり、知識が十分に備わっているとは言い難い。月経に関して気になることがある女性が約80%、(産)婦人科受診を経験したことがない女性が50%を超えていた。また、性と生殖の健康に関する情報や相談を希望する女性は61.4%いた。

よってリプロダクティブヘルスに関する看護支援の必要性が示唆された。留学早期に言語・文化に配慮した支援を開始することが必要である。

#### (謝辞)

本研究の意義をご理解頂き、ご協力くださいました留学生の皆様には深く感謝いたします。

本研究の一部は、第54回日本母性衛生学会学術集会、第34回日本看護科学学会学術集会、18th EAFONSにて発表した。

本研究はJSPS科研費24593416の助成を受けたものである。

なお、本論文に関連する利益相反事項はない。

#### 文献

馬斌(2007):在日中国人大学院生における精神的健康度とその心理・社会的要因, 順天堂医学,53(2), 200-210.

GuYan-Hong, LeeSetsuko, UshijimaHiro-shi(2004):東京大学在学中の中国人女性留学生に対する医療および母子健康管理の必要性, The Tohoku Journal of Experimental Medicine,204(1),71-78.

井上孝代(2001):留学生の異文化間心理学—文化の受容と援助の視点から, 玉川大学出版部,7-12.

伊藤武彦, 井上孝代(1998):全国高等教育機関留学生相談の実態調査第1報, 平成8・9年度科学研究費補助金成果報告書,16-38

久米絢弓, 西川まり子, 大久保一郎(2010):在日中国人留学生の保健行動に関する実態調査, 国際保健医療 25(3),171-179.

黒田千晴(2011):中国の留学生政策—人材資源強国を目指して—, ウェブマガジン『留学交流』vol.1,1-6.

文部科学省:留学生受入れ10万人計画, 中央教育審議会大学分科会留学生部会(第1回)資料4-1, [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/007/gijiroku/030101d.htm#menu](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/007/gijiroku/030101d.htm#menu), 2017年11月20日取得

森真喜子, 青柳美樹(2007):日本における中国人留学生の保健行動とサポート・シス

テムの現状,日本赤十字看護大学紀要,21,33-41.

日本学生支援機構(2017):留学生受入れの概況, [http://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl\\_student\\_e/2016/index.Html](http://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/2016/index.Html), 2017年11月20日取得

斉藤早苗,末原紀美代(2007):就労女性の性感染症に関する知識と意識,日本母性衛生学会誌,47(4),571-581

斉藤早苗,辻本裕子,カルディナス暁東,他(2013):中国山西省における母子保健学術交流および医療施設の視察からリプロダクティブヘルス推進への一考察,梅花女子大学看護学部紀要,3,13-18.

田崎美弥子,中根允文(2011):WHOQOL26 NO.862 手引き改訂版,金子書房.

寺倉憲一(2009):我が国における留学生受入れ政策—これまでの経緯と「留学生30万人計画」の策定—,国立国会図書館調査及び立法考査局レファレンス,2月号,27-47.

陳金娣,高田谷久美子(2008):在日中国人留学生の勉学・生活におけるソーシャルサポートの特徴とその効果,山梨大学看護学会誌,6(2),17-24.

辻本裕子,末原紀美代,柏戸弘子,他(2009):青年期女性の月経に関する知識・行動の実態と健康教育の課題,公益財団法人大同生命厚生事業団第16回「地域保健福祉研究助成」報告集,202-205.